

(2011年11月13日福井新聞掲載)(写真提供:福井新聞社)



越前市の日野川漁業協同組合は12日、同市瓜生町の日野川で、産卵のため海から戻ってきたサケの捕獲に成功した。日野川は水の汚れが原因でサケの遡上が長く途絶えており、同漁協の記録では成魚の確認は61年ぶり。大型回遊魚が元気に泳ぐ川を目指し、清流を取り戻す活動を続けてきた組合員や流域環境団体の努力が実を結んだ。

魚影が見られるようになったのは10月28日以降、日野川のサケは漁禁じられているため、同漁協は遡上の記録を残そうと県に許可を申請、捕獲を試みてきた。12日午前7時ごろ、組合員5人が河原から網を投げ、全長71センチのメス1匹捕らえた。4～5年魚とみられ、産卵は済んでいた。

サケの遡上は同漁協や流域住民の悲願だった。組合員によると、昭和中期以降に造られたダムによって水量が減少し、川が攪拌されなくなって川床や河原に土砂が堆積。雑草がはびこってジャングル化が進み、地中まで張った根が攪拌をより妨げる悪循環が生まれた。

魚の産卵に適した清流が失われ、大型回遊魚が見られなくなった。日野川でサケの遡上が確認された記録は、同漁協の資料では1950年で途絶えている。

こうした現状を改善するため、鯖江市から南越前町に至る環境団体と同漁協、行政が2000年に「日野川流域交流会」を結成。樹林の伐採などによって少しずつ元の環境を取り戻している。同市杉本町一石田上町に架かる石田橋近くに昨年設けた魚道など「県とともに整備に力を入れてきた魚道も好影響した」とみる漁協関係者もいる。

同交流会の田中保土事務局長(71)＝越前市国高2丁目＝は「信じられないほどうれしい。川への関心が高まるきっかけになる」と胸を弾ませる。同漁協の美濃美雄代表理事組合長(84)＝は「遡上が確認されたことで、アユのように稚魚の放流を始められるかもしれない」と期待し、「河川の保全と魚道整備を引き続き進めていく」と話している。